

〈巻頭言〉

新「発達教育学部」開設記念号の発刊に寄せて

発達教育学部長 岩 槻 知 也

かつて文学部教育学科と家政学部児童学科の統合により、京都女子大学の第4の学部として「発達教育学部」が開設されたのは、2004年のことでした。それから20年の時を経た2024年、発達教育学部は再び大きく生まれ変わりました。これまで、主として小学校や特別支援学校の教員養成を担ってきた教育学科教育学専攻、また学校内外で活躍する音楽の指導者を養成してきた教育学科音楽教育学専攻、そして主に保育士や幼稚園教諭を養成してきた児童学科…これら3つの学科・専攻を新たな「教育学科」として一つに統合し、1学部1学科体制の「発達教育学部」が誕生したのです。

この新生・発達教育学部のミッションは、大きく分けて以下の2点になると考えています。まず一つは、乳幼児から成人までの生涯にわたる学びと育ちについて、社会的、文化的、教育的、心理的、身体的側面等の幅広い観点から研究を展開するとともに、そのような研究の成果に基づいて学生の教育を丁寧に進めていくことです。そのために本学部では、従来の学科・専攻の枠を超えて、7つの多彩な教育プログラム—「保育探究」「児童文化」「教育探究」「授業探究」「音楽探究」「インクルーシブ教育」「生涯教育」—を編成し、学生が各自の興味・関心に即して柔軟に学びを深められるような環境を構築しています。

また、もう一つのミッションは、上記の研究・教育活動をベースとしながら、人間の生涯にわたる学びと育ちを支援する多様な専門職を養成することです。具体的には、保育士、幼稚園教諭、小学校・中学校・高等学校教諭、特別支援学校教諭、社会教育士（社会教育主事）等の養成課程を設置し、乳幼児から成人に至るまでの、学校内外における学びと育ちの支援に関わる専門性を涵養するべく、現場での実習を重視した実践的な教育体制を整備しています。

以上のような新しい発達教育学部の取り組みを根底から支える基盤となるのは、やはり先にも述べた通り「研究活動」です。活発な研究活動こそが、魅力的・効果的な教育活動の源泉となるのです。その意味で、この新たな『発達教育学部紀要』の役割は、これまで以上に重要度を増してくるでしょう。新学部開設を記念して発刊される第21号の内容は、まさにこの新しい学部にふさわしい多彩な研究活動が活発に展開されていることを示唆しています。今後も引き続き、本誌が活発な研究発表の場となり、学部内外の研究や教育に刺激を与えることによって、何らかの形で社会に貢献できることを切に願う次第です。